
時計

葦沢カモメ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時計

【Nコード】

N9469K

【作者名】

葦沢カモメ

【あらすじ】

お金持ちに買われた時計の話。

約800字と短めなので、ちらっと読んで、それで何か感じて頂ければ本望です。

私のご主人様は、私を一目で気に入りました。

私もご主人様のことを気に入りました。

私のような高級な時計には、ご主人様のようなお金持ちがふさわしいのです。

周りの時計達に胸を張って、私は時計店を後にしました。

着いたところは、広くて清潔感のある新築のお宅でした。

ご主人様自ら、私を真っ白な壁にかけてくれました。

「どうだ、すごいだろう」

と、ご主人様は私をお坊ちゃんに披露しました。

お坊ちゃんは、「おつきい！」と目を丸くしていました。

私は鼻を高くして、カチ、コチ、カチ、コチと腕を振りました。

しかし、ご主人様は私のことをあまり見てくれません。

仕事柄なのか、金色に光る腕時計で時間を確認してばかりで、見下ろす私には一瞥いちへつもくれません。

私を見て頂けるのは、お坊ちゃんか奥様です。

それでも私は時を刻むのが仕事ですから、ご主人様のために一生懸命、チク、タク、チク、タクと足を回しました。

ところが、ある日突然ご主人様もお坊ちゃんも奥様もいなくなってしまうました。

家の中には、私が上げる乾いた音がずうつと響いていました。

私は待ちました。

お金持ちは旅行をすることが多いのですから、このくらい待てなければ時計として失格だと自分に言い聞かせました。

そうしてもう1カ月が経ちました。

ある時、耐えかねた私は、テーブルの上に佇たたずんでいる砂時計さんに聞きました。

「ご主人様はどちらへご旅行に行かれたのでしょうか？」

すると砂時計さんは、砂をカサカサさせて、こう言いました。

「ああ、ご主人様はご自宅へ戻られたよ」

私は驚いて尋ねました。

「ではここはご自宅ではなかったのですか？」

「ああ、ここはご主人様の別荘さ」

それでも私は、カチ、コチ、チク、タクと休みなく働き続けます。

私の仕事など気に留める人も物もいません。

でも、それが時計としての使命でありますから、いつかまたご主人様に正確な時間をお届けできるように、頑張っているのです。

(後書き)

どうも、亀です。

この小説のテーマは、「見えない努力」。
あなたの部屋にある時計だって、
あなたが見ている時も、見ていない時も、
ずっつと働き続けています。

感じるころがあれば、
まずは目の前の時計に「お疲れ様」と言ってあげて下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9469k/>

時計

2011年10月6日08時33分発行